

広島県福山市（国内8例目）の高病原性鳥インフルエンザ発生農場に係る  
疫学調査チームの現地調査概要

令和3年12月7日に実施した現地調査により、以下のことを確認した。

1 農場の周辺環境

- ① 当該農場は、山間部に位置し、付近は雑木林に囲まれている。調査時、農場周辺の雑木林には地面の掘り返し後など、野生動物の痕跡が確認された。
- ② 調査時、発生農場から230mの距離にあるため池でマガモが9羽、440mの距離にあるため池でホシハジロ14羽など合計22羽、2.4kmの距離にあるため池でハシビロガモ159羽、ヨシガモ33羽など合計で228羽のカモ類が認められた。
- ③ 当該農場はセミウインドレス鶏舎1棟があり、発生時には採卵鶏が飼養されていた。

2 通報までの経緯

- ① 農場責任者によると、発生鶏舎における発生前1週間の1日あたりの死亡鶏は、8~11羽の間で推移していたとのこと。
- ② 農場責任者によると、12月5日に発生鶏舎で42羽の死亡があり、同一ケージでの複数羽の死亡も確認されたが、鶏舎内全体に死亡鶏が散見されたことから、寒暖差やツツキによるものと考え、通報には至らなかった。
- ③ 農場責任者によると、12月6日に発生鶏舎で123羽の死亡があり、鶏舎全体で死亡が確認され、農場責任者が解剖したところ、気管の充血等が確認されたため、家畜保健衛生所通報した。
- ④ 疫学調査時には、発生鶏舎で死亡や沈鬱等が確認された。

3 管理人及び従業員

- ① 当該農場では従業員3名が勤務していた。
- ② 全員が健康観察、鶏舎掃除、集卵作業を行っており、鶏糞の運搬作業のみ、3名のうちの1名が専属で従事していたとのこと。

4 農場の飼養衛生管理

- ① 農場責任者によると、従業員は農場に入る際、シャワーを使用した上で、農場専用の作業着、長靴に交換し、手指を消毒していたとのこと。また、鶏舎に入る際は、専用の長靴を着用、及び手指を消毒し、踏み込み消毒槽を使用していたとのこと。
- ② 鶏舎横の飼料タンク上部には蓋が設置されており、タンク内への野鳥等の侵入やタンク内の飼料への野鳥の糞等の混入の可能性は低い状況であった。
- ③ 農場責任者によると、飼養鶏への給与水は井戸水を利用しており、塩素消毒を実施していたとのこと。
- ④ 農場責任者によると、鶏舎からの鶏糞は、集糞ベルトにて農場敷地内にある鶏糞置き場に搬出した後、当該農場のダンプで系列農場の堆肥処理場に運搬していた。鶏糞置き場には防鳥ネットが設置されており、両農場の出入りの際には車両消毒及び運転手はシャワーと農場専用の作業着、長靴の着用、手指の消毒を実施しているとのこと。
- ⑤ 農場責任者によると、健康観察時に回収した死亡鶏は鶏糞と一緒に農場敷地内の鶏糞置き場に搬出した後、系列農場の堆肥処理場で処理していたとのこと。
- ⑥ 農場責任者によると、当該農場はオールイン・オールアウトを行っており、オールアウト後は鶏舎内の清掃・消毒を行っていたとのこと。
- ⑦ 農場責任者によると、車両が農場敷地に入場する際、農場入り口に設置された動力噴霧器で車体及びタイヤ回りを消毒していたとのこと。

- ⑧ 発生鶏舎であるセミウインドレス鶏舎の構造は、側面及び天井換気部は金網とロールカーテンによって外界と隔てられており、鶏舎奥には排気用の換気扇が設置されていたが、現在は使用しておらず、ロールカーテンを半分ほど開け、自然換気を行っていた。

## 5 野鳥・野生動物対策

- ① 農場責任者によると、農場内ではネズミ、カラス、ネコを見かけることがあるとのこと。調査時には、農場内でネコを確認した。
- ② 農場責任者によると、鶏舎内でネズミを確認することがあり、ネズミ対策（殺鼠剤及び粘着シートの設置）を実施しているとのこと。調査時には、鶏舎でネズミ類のものと思われる糞やかじり痕を確認した。
- ③ 集卵用のバーコンベアの鶏舎外につながる開口部及び下部は覆われておらず、小型の野生動物が侵入可能と思われる隙間が確認された。